

平成31年度

袋井高校同窓会報

第23号



校長 宮本 宗明

地域に愛される学校を

同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援を賜り、誠にありがとうございます。在校生にとりましては、活躍される先輩方の姿を見るのが何よりの励みになります。昨年十一月の社会人講話では、三十三年生の原田佳奈さんに報道機関の仕事や高校時代の思い出を話していただき、生徒は憧れのまなざしで話に聞き入っていました。また、仕事の関係で袋井市役所や中学校を訪問した時、「私は袋井高校の卒業です。」とか「あの先生は、袋井高校のOBだよ。」などと教えていただくことがたくさんあります。さらに、ある企業の人事担当の方が、ど

の学校の卒業生が会社で使えるかという話をしていの中で、袋井高校を挙げてくれました。生徒にとつては、身近で活躍する先輩を見るのが何よりのキャリア教育になります。さて、現役の高校生は、地域社会にどれだけ貢献できているのでしょうか。土日や夏休みでも部活動に宿題、補講もあり、なかなかボランティアなどに参加することができません。夏休みにサマーショートボラティアに参加している生徒もいますが数名です。しかし、部活動単位では様々な活動をしています。十二月に行われたクラウンメロンマラソンには袋井高校から百六人がボラン

ティアに参加しました。陸上競技部や野球部はエコパでの接待や中継地点での監察を行い、ダンス部は袋井南中の正門付近に並びチエアドンスで応援しました。「袋井高校、さいころー」と言つて手を振つてくれたり、駆け寄つてハイタッチしてくれるランナーもいました。また、SNSには「前半、心が折れかかっていた時、袋井高生のチエアの応援でかなり元気になりました(笑)」という投稿もありました。そんな声が生徒のやる気につながっています。昨年十月一日、台風二十四号が静岡県を通過し、袋井市内も数日間停電しましたが、袋井高校では一日休校としましたが、翌日には授業を再開することができました。しかし、周辺の住宅地では電気が復旧せず、お風呂にも入れない状況でした。しばらくして、ある先生から「榎緑館のお風呂を解放してあげれば良かったね。」と言われ、気づかなかつたことを反省しました。普段から学校が地域とつながっていることが大切です。特に災害の際には学校は避難場所となり、高校生の活躍が期待されます。これからも「志を立つ強靱な人間の育成」の建学の精神の下、社会で活躍し、地域に貢献する人材の育成に努めてまいります。今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願いいたします。



同窓会報発刊によせて

同窓会長 鈴木 康之

第23号の同窓会報を発刊させていただくにあたり、ご挨拶をさせていただきます。

同窓生の皆様には日頃より同窓会活動に多大なるご支援・ご協力を賜りありがとうございます。

平成30年度卒業生、第41期生を加え、会員は1万4千人になろうとしています。日本全国各地にさまざまな職種において活躍されておりますことは皆様ご承知のことと思います。同窓会設立当初からの悲願でもあ

りました。「榎緑館」が平成26年2月に竣工し、5年が経ちました。この間、在校生のみならずには、部活動に受験のための補習事業にと有効に活用していただき、同窓会の役員会、理事評議員会にと利用してまいりました。これからも同窓会や袋井高校のシンボルとして末永く利用していただけることと思っています。来るべき創立50周年に向け、2年前から16期生が中心となり同窓会実行委員会を立ち上げました。年間の

最大行事である「同窓会総会」の企画運営を当番年度が持ち回りで行われていきます。伝統校では当たり前のように運営をしていますが、我が袋井高校同窓会におきましては、近年、クラス会や同期会は盛んに開催されるようになりましたが、全体の総会となると、なかなか企画運営を引き受けてはいただけませんでした。しかしながら、実行委員会の皆さんの熱心なPR活動や勧誘により同窓生が関心を持ち、多くの会員が出席してくれるようになりました。本年は、8月17日(土)に磐田グランドホテルにて開催いたします。同窓生の友人をお誘いいただき出席してみてはいかがでしょうか?各方面

で活躍されている先輩、後輩と交流できるまたとないチャンスになることとでしよう。私たちも楽しみにお待ちしております。

昭和51年に誕生した袋井高校も、昭和から平成にそして新しい時代に引き継がれてゆきます。時代は変化しても、「自立」「連帯」「敬愛」の精進は不変です。これからの袋井高校発展のため、同窓生の皆様には益々のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

この同窓会報の発送に合わせて、同窓会総会の案内を同封してあります。皆様の参加をお待ちしています。同窓生の皆様の益々のご健康・ご活躍をお祈り申し上げます。

第三十四回袋井高校同窓会懇親会

旧職員 桑原武彦

私の家の近くの大庭梨絵さん、平成七年卒業、第十七回生から、同窓会懇親会への参加のお誘いを受けて、気軽に承諾の返事をいたしました。私は平成四年四月より平成十三年三月まで袋井高校に勤務させていただきました。平成七年はもう二十三年も昔になりました。その時の皆さんの一学年時に担任をし、二、三年時は副担任であったと思います。九年もの勤務ですから大いなる貢献をなして然るべきだと思いますが、担任を一年、あとは、教務課の仕事をしておりましたから、二〇二五年には創立五十周年記念式典を挙行なさるそうですが、平成七年には創立二十周年記念式典を行うことになって、その実行委員の役割が回り、記念講演の講師との交渉役等を果たしたことが思い浮かびます。平成十三年三月で退職。その年卒業の皆さんにも副担任をいたしました。八月十八日、十七時頃、袋井駅に立っておりますと、第十七期生久保田誠さんのご案内で、磐田グランドホテル行きのバスに乗り込み会場入りということになりました。懇親会では、鈴木康之同窓会長さん、宮本宗明校長先生にご挨拶申し上げ、

ご出席の旧職員田中盾夫先生、森伸一先生、近藤正美先生、鳥居憲先生には十七年ぶりから二十年ぶりにお会いし、お話をすることができました。会場は賑やかで楽しい雰囲気でした。私は、幹事で大奮闘の久保田誠さんと、昔の授業のこと、グラフィックデザイナーの仕事のことなど話しました。平成十三年卒、第二十三回生の犬塚博敏さん、鈴木覚さんとは、それぞれの仕事の話はなし、六年後の同窓会幹事のことなど話しました。忘れてしまっていた人が浮かびあがり、楽しい話らしいでした。

ところで、同窓生の皆さんは、袋井高校卒業時、卒業式の前後に同窓会入会式というものがあり、卒業生全員が、同窓会に入って来られました。同窓会組織を作っているのは、学校というものが、その発展的存続を求め、そのために、卒業生に後援をお願いしたいからです。創業者の皆さんも母校に愛着を感じ、その発展的存続を同様に願うところに同窓会組織は成立しています。

母校への愛着、愛校心は同窓会懇親会においては仲間と語る楽しさの中に現れていると思われませんが、別

様の現れ方もあります。私が十年勤務させていた近隣の高校では、県から他の学校との合併の話がもたらされ、かつての担任の生徒たちが、昭和五十九年卒です。存続の嘆願書への署名活動をする姿を、招かれたクラス会で見ることになりました。県立高校で、生徒数の減少から合併の道は、県の判断として止むを得ざることに大方が考えるなか、それを覆すことは難しいかもしれませんが、覆すとしたらどうした方でしょうか。地域・同窓会立高等学校でしょうか。そんなことは有り得ず、別の道でしょうか、こうした時、同窓生の愛校心が問われることになるでしょう。

また、話を転じますが、安富歩著「生きるための論語」の話です。「論語」の中に、安富氏の解釈により書きますと、「君子は根本を大切にす。孝は仁の根本をなしている。」とあり、また、「宰我という弟子が、親の死に対する三年の喪は長過ぎる、一年で止めてよいかと問うたところ、孔子は、あなたが、それで安らかならば、心のままになせと応え、宰我の退出後、孝心を欠く者は仁者たりえない、宰我の父母は、親の死に対して三年の喪に服する孝心を育てなかつた、三年の愛を与えなかつたに違いないと言った。」とあります。ここから安富氏は、「現

三十七年 睡夢の中

旧職員 廣岡宥樹

代の日本社会が、企業といわず、政府といわず、ありとあらゆる組織において耐え難いほどの閉塞感に苦しんでいるのはなぜか。それは、ひと

えに我々の社会が君子を欠いており、経営者が小人によって占められているからである。

私の教員生活は、浜西高六年・磐田農高二十年・袋井高十一年の三十七年間です。通常恙なく進むと三十八年間ですが、私の場合高校と大学の間浪人生活が一年挟まっているからです。

私は高校生の頃、進路指導なるものを受けたことはありません。クラスは三年間固定で担任教師も変わらず、その方はひたすら自らの生物学に立ち向かっておられました。私は大学といえば国立大学に行くもの、受験科目は英数国社理全科目とばかり思っていました。

ところが二年生の秋頃、同クラスの或る男が「理数なしでも受けられる所だつてあるぜ」と言うので、初めてそのことを知りました。

理数のできない私にとって、それを除いて組んだ高三の生活は天国でした。

それでも私は勉強ができなかつたので、東京の某マンモス私大の文系

学部を受けて不合格になりました。受けたのは一校だけだったので、東京の親戚から高田の馬場の予備校に通うことになったのです。

私の生徒生活での宝物の一つとなつたのは、正月八ヶ月弱の予備校生活でした。

村松定孝という人は泉鏡花の作品の紹介・評論をよく書いていた人で、講座の大半はあれこれの作家の身辺話で費やし、最後に問題集の答えだけを、しょっちゅう誤答を含みながら、そそくさと言って帰るのが毎日でした。

受験などという生臭いことを私達の頭から吹き飛ばす面白さでした。

三上という人はイギリスの作家コングラッズの「LA GOON」という中篇小説を週一講座で、十一月中頃までかけて読み終えました。私がまともにも原文で外国物を読み切つた最初の作品となりました。

「更級日記」の須田哲夫という人

はぞつこん感傷の人でした。自分で声読しながら、独り悦に入り、天井を仰いで「ウーン」と唸って暫く言葉無く、最後に一言、「どうだ、いねえ、きみ」が締めでした。

この人の周りに、浪人終了後も多くの若者が集まりました。私はその後の四年間、その人と水路一本隔てた対岸に住んで、その窓の灯りが消えるまではと頑張ったものでした。

在職中、私は進路指導即受験指導の空気には不快感を感じていました。教員は背中を見せ、背中で語るものだと思ってきました。退職後二十年過ぎようとしている今も、自

分が果たしてどうであったかは判りません。人は年月が隔たる程自分の足らざる所には目を瞑り、ありもしなかつたものを作り上げ、自己満足に浸るものです。

今私は、過去に悔いも反省もなく、後への思いもなく、『孫子・呉子』『戦国策』などの大冊中を、「字源」「広辞苑」などと共に有遊しています。親譲りの眠り性に身を任せながらであることは言うを待ちませ

ん。袋井高校が、生徒諸君始め、関わった全ての人々の永い心の故郷でありますように。

懐かしい昭和の匂い

旧職員 近藤 正美

今から三〇年以上も前のこと

す。開校から一〇年過ぎた昭和六十二年四月、袋井高校へ赴任となり、新たな気持ちで校門をくぐりました。一緒に登校する生徒たちは学生靴を持って、男子生徒は学生帽をかぶっていました。それは私の高校時代と何ら変わりない姿でした。

「えっ今も！」その時は正直そう思いました。多くの学校が校則や制服の見直しが進むなか、こうした高校生

に懐かしく思いました。

学校に慣れてくると今度は「この生徒はよく掃除する生徒たちだなあ」と感心しました。朝に夕に授業や清掃の時間外にもかかわらずよく掃除をしていたのです。まもなく校則違反をするとうるむことを知りました。

理由を聞くとどの生徒も「ぼくが悪いんですよ。校則を破ったんですから。でも・・・」

からしばらくしたある日、前回と同じ生徒が玄関の掃除をしています。「おい、またか？」と声をかけると、「先生聞いてくださいよ。〇〇ですよ、〇〇」と、彼は機嫌悪そうにぶつさらばうに言いました。〇〇とは無謀でなく無帽のことでした。「そうか。でもな、校則は守らなきゃ意味がないと思うよ。」と私。「それじゃ、先生、悪法も守らなきゃいけないんですか？先生、不易流行って知っていますか？学校だつて同じだと思いませんか？もう世の中変わつてるんですから」と生徒。彼はまくし立てるように言いました。この一件があつてかどうか知りませんが、彼はその年有名私立大学の法学部に合格しました。

赴任早々にこのようなことがあつて、学校というところは一体どういうところなんだろうと真剣に考えました。日頃の生徒の活動を見て「認めて 褒めて 放つ」ことがいいのか、「言つて させて 気づかせる」ことがいいのかと。そんな折、袋井高校初代校長の河合九平先生が「教師に熱意がある、生徒が頑張る、保護者が理解する、そして地域が支える。これが学校の理想像である」と書かれた記事を目にしました。「そうか、生徒は未熟であるから学校に学びに来るんだ」、そう思うと気持ち

的な知識教養はもちろん、生きる術についても、その基礎基本を教えるにはまず教師の導きが必要なんだという結論に至りました。学ぶ主体は生徒であつても、導く主体は教師である。こんな始まりからあつという間の十三年間を袋井高校でお世話になりました。幸い生徒にも先生方にも恵まれ、居心地がよかつたのでつい長居をしてしまいました。当時を振り返ると感慨深いものがあります。それは戦後昭和の日本の高度経済成長期の勢いのような風景を、この学校の随所に見たからです。先生方が近隣の進学校に追いつき追い越せと熱くなり、生徒がそれに懸命に頑張りで応えるという、学園・青春の原風景がそこにありました。ログスの集い、茶摘み勤労体験、高の字山作業、補習、勉強合宿など体験重視の学校行事が多くありました。生徒には不人気のももありましたが、この師弟同行の厳しい体験や試練があつたからこそ、現在の堂々たる文武両道の進学校としての地位が築けたのであり、先輩たちに続いて、生徒たちは本当によく頑張つたと敬意を表します。

また、私は今は廃部となつた男子ソフトボール部の顧問でした。赴任早々「平3総体」を目指して創部し、学校から離れた借地の上田町グ

ラウンドで、毎日の石拾いから始めました。論より実践とばかりに、早速父母会の支援をいただいで県内外へ練習試合、合宿そして遠征へと大阪・千里や山形・南陽まで行きました。その甲斐あつてそこそこのチームになり、運よくインターハイへ出場することができました。県大会で勝つて総体出場を決めて帰校した時、その日はちょうど一学期の球技大会で、閉会式の最中でした。ユニホーム姿でグラウンドに入ると全校生徒に拍手と歓声で迎えられ、私は朝礼台の上で、上ずつた声で報告したことを今でも鮮明に覚えています。

こんなこともありました。卒業式の日の午後、校門すぐ下の学校茶園で多くの学生帽を拾い集めました。段ボール箱に三杯はありました。生徒の三年間の無言の抵抗を知りました。しかしそれは、開校からの先生方の十年間の粉骨砕身、必死の学校づくりの結果でもありました。

今でも時々、あの緑色のジャージを着た玄関の無帽の生徒のことを思い出します。

今頃どうしているのかと思いを馳せま

す。

袋井の丘での十三年間は、私の教員生活の中で一番「緑風薫る」ころ

でした。

(30周年) から現在まで

平28	平26	平25	平24	平23	平22		平21	平17	
7月	4月	2月	4月	7月	3月	7月	10月	8月	11月
高校野球静岡大会 準優勝	39期生 327人入学	生活会館「楨緑館」竣工	オーストラリア「トマス・ハツサール校」と姉妹校提携	太陽光発電工事竣工	卓球場竣工	弓道場竣工	校舎耐震補強工事竣工	静岡県・袋井市総合防災訓練	創立30周年記念式典挙行

何処にいようと

十三期 中川直美

高校時代、私の好きな科目は、英語と国語、まさに文系でした。将来は、好きな英語を生かす仕事をして海外に住みたいという気持ちをもっていました。私の記憶が確かなら、卒業アルバムに、「世界に羽ばたくぞ」と書いていたと思います。

袋井高校卒業後、進学、留学、就職とあつという間に月日は二十五年以上流れてしまいました。

現在は、スペインのバルセロナに夫と子供で暮らしています。バルセロナ日本人学校に勤務し、今年で六年になります。バルセロナはカタールニヤ地方にあります。こちらに来て知ったことですが、カタールニヤ地方では、カタールニヤ語が話されているということです。カタールニヤ語はフランス語、イタリア語などによく似ていると言われています。こちらでは、私たちが言う、スペイン語はカステイリヤ地方の言葉、カステイリヤノと言われている。カタールニヤ語とは異なる言語です。来た当初は、言葉がほとんど分からない状態でしたから、この二つの区別もつきませんでした。バルセロナの標識や道路標識などの多くはカタールニヤ語で書かれていたり、バスや電車のアナウンスもカタールニヤ語でされたりするため戸惑うことも度々ありました。

夫はバルセロナ出身です。もちろん彼は、自分の家族や友達とはカタールニヤ語で話しています。私とは、英語、日本語、スペイン語とで会話をしています。

息子が生まれたときに、最初の検診で、父親と母親の言語が異なる場合、通常と比べて言葉話し始める時期が遅いかもしいかなと言われました。息子との会話をどうするかを夫婦で話し合いました。夫はカタールニヤ語、私

は日本語で会話するということになりましたが、スペイン語(カステイリヤノ)で話す人として息子の身近にいたのは、アイルランド人の彼の叔母くらいでした。スペインでの育児休暇は出産日から数えて十六週間です。その間は毎日、日本語で話しかけたり、すやすや寝ている息子にも本の読み聞かせをしたりしました。育児が終わって仕事に復帰するために保育園に預けることになってからは、息子といられる時間もかなり減ってしまいました。聞かせを可能な限りするようにしています。

息子は三歳になり、日本語とカタールニヤ語、スペイン語、英語の区別がつくようになりました。話す相手によって使い分けもできています。しかし、彼にとって優勢な言語はやはりカタールニヤ語のようです。私は日本語で会話しますが、日本語の語彙数が少ないためカタールニヤ語が混じってしまいます。

最近、日本に行った時のこと、日本語ばかりの日に疲れたのか、息子がふと「僕はカタラン(カタールニヤ人)だからカタールニヤ語で話す」とカタールニヤ語で言いました。

日本に滞在中、彼の口から日本語がたくさん出てくるようになったと喜んでいました。これを聞いて驚き、またシヨックでもありました。

息子の教育に関して、何が正しいかは分かりません。しかし、今私たちが出来る限りのことを精一杯してあげたいと考えています。

日々の忙しさに、ついつい楽な方へとながされてしまいがちですが、日本語を全く話さなかった息子が、ある日、ふと突然に話し出す現象を目の当たりにして、小さなことをコツコツと

積み重ねていくことが不可欠だと痛感しています。

また、先輩ママ達から、子供への日本語教育についての話を聞くことは、励みになります。やはり、どこのご家庭でも親子でかなりの努力をされていることが分かります。また子供が成長するにつれて事情も複雑になってくるようです。

将来、息子がどんな路に進むのかはまだわかりませんが、いつか日本語が彼のために役立つのであればと考えています。息子が生まれる前は、こちらに住む日本人との付き合いはあえて無くてよいとさえ思っていました。

しかし異国の地で子育てをしていく上で、日本人ママ同士の繋がりはとても大切だと感じています。

袋井高校を卒業してから、長く地元を離れていましたが、海外に住む今、日本で私の帰る場所といえば実家のある袋井です。帰省の際、バルセロナ空港から最終的に実家の最寄駅袋井駅に降り立つわけですが、時折、袋井高校生の姿を見かけることがあり、とても懐かしい気持ちになります。

現在、日本各地、世界中で同窓会員の皆さんが活躍されていることと思えます。どこにいても会員同士が繋がりがあっていくことを祈願しております。

2017年8月



平成17年

袋井高校同窓会

ホームページ (PC)
http://www.roiko-ob.net

「袋井高校同窓会」
で検索

QRコード
携帯サイト

ブログ
http://rolkoob.hamazo.tv

Facebook
いいね! 2,172名 (2018/11/1 現在)
https://www.facebook.com/rolkoob

ツイッター
フォロワー数 1,805名 (2018/11/1 現在)
https://twitter.com/rolkoob

QRコード



袋井高校キャラクター「ロイッピー」

	平30		平29	
8月	4月	12月	8月	9月
総会 (17期生担当) 開催	43期生 306人入学	サッカー スルガカップ 優勝	総会年次制 (16期生担当) で開催	北自転車置き場竣工

静岡県立袋井高等学校同窓会事務局

〒437-0031 袋井市愛野2446-1
TEL (0538) 42-0191 FAX (0538) 43-0710
http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fukuroi-h/home.nsf
E-mail : fukuroi-h@eos.ocn.ne.jp

夢は、変化し続ける。

十五期生 石黒 加奈

私は、十五期生の、旧姓紋谷加奈と申します。この名前をみて、私を知っている方は、さぞかしびっくりしている事でしょう。

自身も原稿依頼を頂いた時、大変驚きました。そして、何を皆さんにお伝えしたらいかがと悩みました。と、いうのも、高校時代の思い出といつても、これとこの事でも精一杯の毎日でした。だから、でも、それなりに、青春を謳歌し、当時夢だった教師を目指し、大学に進学しました。

しかし、バブル崩壊の波が押し寄せ、自身も、仲間も就職できるか不安な状況が続き、なかには、やっと派遣の仕事に就けたなど、厳しい状況の中、自分は教師という夢を叶えることなく、実家の仕事を手伝う事となりました。夢叶わず、当時は、両親の支えになればと仕事をすつもりでした。

実家は電気工事業を営んでいます。住宅配線、工場の機械配線、アンテナ工事、空調設備工事といった幅広い分野の電気工事です。

私自身、電気工事には特に興味もなかったのですが、事務仕事をするなら、まず材料や仕事を知ることが必要だと、なぜか初日から現場に連れ出され、購入した事務服を着ることなく、いつの間にか、第二種電気工事士、第一種電気工事士の免許を取得し、電工女子となりました。そして、想像以上に私は電気工事の魅力に取りつかれていたのでした。

当時は、まだ女性が作業服で現場にいることは珍しく、好奇の目で見られることが多かったのです。幸い私は、良い人たちに恵まれ、暖かく見守られるから、今日に至り、現場に出ることが出来ています。

そして、今回原稿依頼を頂いたきっかけが、昨年行われたのです。電気工事技能競技全国大会に、女性の部で静岡県代表として出場すること

なつたのです。大会自体、二年前までは、女性の部がなかったのに、時代の流れを感じたと共に、女性が必要とされる時代がやってくたのだと嬉しく思いました。そしてやっと、電工女子として、今日まで頑張ってきた成果が出せるのだと期待に胸膨らませ、練習に励みました。

大会の内容は、規定の時間内に、課題の作品を作り上げる大会です。スピードも必要、見た目の美しさも必要、そして結線も正確でなければなりません。想像以上に厳しいものでした。時間内に無理に治めようとすると、見た目も悪く、正確さを求めると、時間がなく...。両方重視しなければ完成に至りません。大会当日まで、母に子供の事や家事を協力してもらい、練習時間を確保し、なんとか作品を時間内に仕上げる事ができ、納得した形で大会に望むことができました。

しかし、会場の雰囲気呑まれ、練習通りのスピードが出せず賞は逃してしまいました。しかし、それよりもなによりも、大会当日まで、たくさんの人たちが応援して下さった事、支えてくれたこと、自分が目標に向かって真剣に取り組んだこと、今まで感じたことのない興奮、達成感を味わうことができ、私の一生忘れられない出来事となりました。

夢は突然現れます。そして目標も生まれ、変化もします。私は40代です。子供も高校一年、中学二年、小学六年と三人います。そんな私でも、夢は突然現れました。若いから夢を持たなければならぬとでもありません。夢は破れても悪いことでもありません。夢は破れても、次の夢のきっかけにすぎません。夢つてなんだろうと不安に思うことはありません。

また、私が伝えたいことは、形にとらわれすぎないでほしいということです。男性だから、女性だからではなく、男性でも、女性でもといったいろんな角度で物事をみる必要が、これから大切になっていくのだと思います。男性だから、仕事重視してもよい。女性だから家庭をおろそかにしてはならないのだと思います。男性でも家庭を大事にし、女性でも仕事に情熱を燃やしてもいいのだと思います。

今年、私の夢、そして課題は、女性が活躍しやすい職場作りのお手伝いをすること、そしてたくさんの方に電気工事という職業の魅力を伝えていくことです。私の夢であり、目標でもあります。

今年、女性活躍推進事業の、パネリストとして、参加させて頂きました。とても楽しみです。これからの日本の皆さんで作るものです。誰もが自分に自身を持って前に進むことのできる社会を想像しながら、自分なりに頑張りたいと思います。

会報に掲載させて頂くついでに、もう一つ伝えたいことがあります。大会に出場することが新聞に掲載され、たくさんのお同級生に、応援してもらいました。そして、「友達として誇りに思うよ」とか、「励みになるよ」と言ってくれたメッセや恩師の先生にも、お褒めの言葉を頂きました。

でも、わたしにはいろんな時期がありました。人生に迷うことも幾度かありました。そんな自分を励ましてくれ、心配しながら私の友達でいてくれたこと、みんなと違う女性らしくない職業についていても否定せず、認めてくれたこと、恩師であってくれたことに感謝しているのです。

私は友人達のそれぞれの生き方が大好きです。友人として誇りを持っていきます。さすが、袋井高校卒業生だとなんと自信をもって良いと思います。(笑)そして、これからの人生において、相変わらずの関係でいてほしいと切に思います。

袋井高校の名に恥じぬよう、自分なりに目標を持って、邁進していく所存でございます。緑風を感じながら...

「バトンを受けて」

第34回同窓会総会実行委員長 17期生 古田 健一郎

この度第34回（平成30年8月18日）の同窓会総会・懇親会に関わらせて頂きました。その開催までの所感を綴らせて頂くと思っています。

私自身、卒業時に同窓会評議員となっていたにも関わらず、なかなか母校のために力になれず、通知が来るたびに心苦しく思っていました。ある日、一つ上の先輩から連絡があり「同窓会に関わる集まりがあるので来られたら来て」と言われ、軽い気持ちで向かったのが今から3年前の春です。その時に分かった事は、「2025年に母校は創立50周年を迎える」「今までの学校事務局主催の同窓会を改め幹事を年次当番にする」「一つ上の16期生の先輩達が平成29年より実行する」ということでした。平成30年は自分たちの番一変なことになったと非常に焦ったことを今も覚えています。卒業以来17期生全体で同窓会を開いたことすらなかったからです。

まずは連絡網を作る必要があり、直ちにLINEのグループを立ち上げました。その後、手始めに平成28年11月に35人弱の出席でしたが初めて同窓会を行いました。「平成30年は自分達が幹事の年である」ことを共有することが目的でしたが、集まったことで「思い出話など」話が合う」「皆が分かる」「（知ってはいたが）卒業して初めて話せた」など同窓会の醍醐味を感じてくれたようです。そして、実は皆開催を期待していたと分かり、手応えを感じることが出来ました。

その後、16期生の準備にご一緒させてもらいながら、劇的に変化した第33回同窓会が開催された事を目の当たりにし、一段とプレッシャーを感じたものです。私たちが実際に総会の準備に取り組み始めたのは平成29年11月頃で、その後月一程度の会議を重ねました。ポスター準備・協賛金集め・パンフレット作成・当日企画等いろいろやるべき事がありました。一番の悩みとしては人員不足でした。

16期生の実行委員と大きく違ったのは会社勤めが多く、なかなか自由に行動が出来ないということでした。協賛金集めなどは、OB・OGが多く勤められている会社中心に訪問しましたが、不慣れな活動に抵抗を感じる者も多く、難航しました。

実際にお願ひする中、改めて母校卒業生がいろいろな分野で活躍されていることを知ったこと、温かくご理解して頂けることに母校愛を垣間見られ、私自身大変貴重な経験をさせて頂いたと思つて感謝しております。

バトンを受けた私たちは、16期生の先輩方が道を作ってくれていたのので、そこを辿れば良かったし、気にかけてくれて多くの助言や協力を頂き、非常に助かりました。

無事役目を全うし、微力ながら母校のために力になれたと個人的にホッとしているところですが、様々な課題やご意見もあろうかと思えます。まだまだ年次当番制の同窓会は始まったばかり。今後、18期、19期、20期・としっかりとバトンを受け渡され、より盛大な同窓会が行われることを期待しています。

「同窓会総会に寄せて」

第35回同窓会総会実行委員長 18期生 浅田 竜平

同窓生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第35回同窓会実行委員会を代表してご挨拶申し上げます。

母校は6年後、2025年に創立50周年の節目を迎え、記念式典を行うこととなります。

とは申しませんが、私も、数年前までは同窓会総会・懇親会に参加したこともなく、2年前の16期生の先輩方の「今年から42歳が幹事年になったので参加してよ。」とほぼ強制的に参加したのが最初であります。

幹事年にあたり実行委員長という大役を若輩者が務めることとなり、まず何から手をつけるべきかわからず、雲をつかむような状態でした。

その中でも一緒にがんばってくれる役員の方、母校の事務局の方々

の応援もあり、やるならば一生懸命に取り組み、参加された方の思い出に残る同窓会総会・懇親会にしようと思つてようになりました。

実行委員会を開催するにあたり訪れた学校は、生活会館（楨緑館）

そ新しくなりましたが、環境や雰囲気は変わっておらず、当時は思い起こさせます。夜、遅くまでがんばる部活動、高の宇山や校舎、高校時代の様々な思い出がよみがえってきます。

卒業して24年、袋井市や磐岡地区、そして静岡県を離れた方も多いと思います。

年に一度の同窓会総会・懇親会の機会に是非、懐かしい再会や思い出話を花を咲かせてみませんか？

今年度、そして2025年の50周年記念式典では、多くの同窓生で盛大に50周年のお祝いをしたい。その思いを胸に「一致団結」して

2019年8月17日（土）に磐田グランドホテルで同窓生の皆様をお待ちしております。



平成30年度 袋井高校 の 1年



オーストラリア研修



高校野球



体育大会



マラソン大会



緑風祭



ロゴスの集い



体育大会



勤労体験



緑風祭



緑風祭

計 報

平30・9 椋本 正明 事務長
ご冥福をお祈りいたします。

事務局だより

● 毎年のことですが、不明者が大変多く、総会案内を郵送しても戻ってきていません。同級会などで、不明者になっている方がいましたら、確認の上、住所等袋井高校同窓会事務局あて、FAX・メール・はがき等でご連絡いただけましたら幸いです。

● 「模緑館」が竣工して、五年になりました。在校生は、部活動に補習にと活用しています。今年の同窓会担当の十八期生が毎月、模緑館で準備会を行っています。使用したい同窓生の方は、事務局まで連絡ください。日程が空いていましたら、使用可能です。いろいろにご活用ください。

編集後記

平成最後の年。そして本年は、天皇の退位・即位と行事も多く、お休みも増えます。

この機会に、同級会・学年会等を行なうよい時ではないでしょうか？

久しぶりに懐かしい顔を見にいきませんか？懐かしい思い出がよみがえることでしょうか。

二年毎に同窓会報を発刊しています。

原稿の依頼をご承諾いただいた皆様には、大変感謝しています。次回の会報発行の時には、原稿依頼が届きましたら、皆さんよろしくお願いいたします。

八月には、十八期生担当で、第三十五回同窓会総会が磐田グランドホテルで開催されます。皆でんお誘い合わせの上、多くの同窓生の出席をお待ちしております。

第35回 Shizuoka prefectural FUKUROI High school 静岡県立袋井高等学校 同窓会総会&懇親会

一昨年度より幹事を年次制に移行させ、今年は第18期生が担当し、運営をしております。今後にはかえる創立50周年にむけて規模を拡大させていきたいので、ぜひご参加ください！

同窓会総会では現在の学校の活動報告や近況などが紹介、報告されます。続いての懇親会では同級生はもちろん、先輩、後輩と交流ができますよ。当日は、お世話になった恩師の方々もご出席していただける予定でおりますのでお楽しみに。

2019年
(平成31年) **8月17日** 土
磐田グランドホテル

- 同窓会総会 17:00~17:30
- 懇親会 18:00~20:00
- 会費 6,000円 ※当日受付にて徴収

【送迎バス運行(無料)】

JR磐田駅南口…16:00発/17:00発
JR袋井駅北口…16:00発/17:00発

参加ご希望の方は事前申し込みを

【ネット受付専用アドレス】

<http://roiko-ob.net/reunion/register>

【Facebook】袋井高校同窓会総会実行委員会

<https://www.facebook.com/Fukuroi.HS.Alumni/>

【同窓会ホームページ】

<http://www.roiko-ob.net/>

※お寄せいただいた個人情報同窓会の運営目的にのみ使用し、静岡県立袋井高等学校 同窓会事務局 同窓会実行委員会が厳重に管理いたします。

●参加申し込み方法等、詳細はお問い合わせください。



ロイッピー



同窓会に関するお問い合わせ先

静岡県立袋井高等学校 同窓会事務局内 同窓会総会実行委員会
〒437-0031 静岡県袋井市愛野2446-1 FAX.0538-43-0710

2025(平成37年)年度 創立50周年記念式典に向けて一致団結!